石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第467号　令和4年9月1日発行

加賀宝生のすべて　―能面と能装束―

《翁狩衣　蜀江模様》文化6年(1809)　宝生会蔵
―「加賀宝生のすべて―能面と能装束―」より―

- 特別陳列　小堀遠州と前田家【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 特別陳列　Water Planets―永遠の瞬間（とき）を前にして―
  中島範雄展【油彩画】
- 茶の湯の美【古美術】
- みんなで楽しむ　はじめての工芸Ⅱ【近現代工芸】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 9月の企画展示室
- 〔参加者募集〕令和4年度　友の会バスツアー
- 9月の行事予定
- アラカルト　ただいま展示中

企画展（第7～9展示室 ）

加賀宝生のすべて ―能面と能装束―

主催／石川県立美術館　特別協力／北國新聞社
後援／NHK金沢放送局、MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送

9月17日（土）～10月23日（日）　会期中無休

※会期中、一部作品の展示替えを行います。（前期：9月17日～10月5日／後期：10月6日～10月23日）

「空から謡が降ってくる」

かつて金沢の街を歩くと、謡を謡う植木屋さんの声が頭上から聞こえてきたといいます。職人や庶民の間にまで、謡が浸透した金沢は、江戸時代の加賀藩主前田家が宝生流の能を好んだことから、「加賀宝生」の言葉も生み出しました。

前田家が宝生流の能を好んだのは、五代将軍徳川綱吉の影響です。徳川将軍家は代々観世流に能を習いましたが、綱吉は自身が宝生流の能を好んだだけでなく、大名たちにも宝生流に習い、演じるよう命じたのです。貞享三年（一六八六）四月三日、綱吉の命により江戸城にて五代前田綱紀ははじめて能〈桜川〉を舞います。これが「加賀宝生」のはじまりとなりました。

江戸後期、宝生流を贔屓とした一橋家出身の徳川家斉が十一代将軍になったことから、宝生流は再び栄えます。家斉の十一女溶姫を室として迎えた前田家においても、再び能が盛んとなり、能装束が多く仕立てられました。藩主は十三代前田斉泰。溶姫を迎えるために、加賀藩の江戸屋敷本郷邸に建てられたのが、現在の東京大学の赤門です。

本展覧会では、この斉泰の時代とその父斉広の時代に仕立てられた能装束六十一点を中心に、能面十五点と加賀藩の能楽関連資料五点をあわせて紹介します。加賀藩の能楽史を再考するとともに、今年開館五十周年を迎える石川県立能楽堂へ足を運ぶきっかけとなることを目指しています。

■展覧会構成

一、能面の「いろは」
二、能装束の「いろは」
三、能装束の畳紙にみる加賀藩主―斉広・斉泰―の能
四、狩野芳崖がみた能装束

■観覧料　一般　一、〇〇〇円（八〇〇円）
大学生　八〇〇円（六〇〇円）
高校生以下　無料

■関連行事

◇講演会　十月十六日（日）午後一時三十分～三時
「大名家伝来の能装束
―『獻英楼畫叢』や畳紙を通じてわかること―」
講師　長崎 巌氏
（共立女子大学博物館長・家政学部教授）
会場　講義室（聴講無料）

◇石川県立能楽堂×県立美術館コラボツアー
十七日（土）　能楽講座×ギャラリートーク
十九日（月・祝）能楽体験ワークショップ
×ギャラリートーク
午後一時三十分～四時ごろ
※詳しくは、当館公式ウェブサイトをご確認ください。

《長絹　唐花亀甲に蝶模様》宝生会蔵

《能面　節木増》宝生会蔵

《縫箔　雲に尾長鳥丸模様》
国立能楽堂蔵

前田育徳会尊経閣文庫分館
特別陳列
小堀遠州と前田家

9月10日（土）～10月23日（日）　会期中無休

小堀遠州（一五七九～一六四七）は、近江国小堀村（現在の滋賀県長浜市）に生まれ、当初豊臣秀吉に仕え、のち徳川家康に従い遠江守に任ぜられ、近江小室一万二千石を領しました。一五八八年に千利休と出会い、利休没後は利休の高弟、古田織部に茶の湯を学び、伝授を受け、やがて遠州流茶道の祖となり、将軍や大名に指南しました。和歌も深く嗜み、藤原定家に私淑して、書において独自の定家流を確立しました。

遠州と加賀藩主・前田家との関わりは深く、まず三代藩主利常は、一六二五年に遠州による伏見奉行就任と屋敷完成披露の茶会初日の第一に招かれています。そして利常の嫡男・光高は、一六三九年に遠州より台子相伝を受け、今回展示する《遠州茶道聞書覚》を記しています。さらに多くの年代は未詳ながら、利常は寛永年間と推定される時期に、勘返の形で遠州に書院飾りや台天目使用時の作法などにつき詳細に指導を仰ぎ、回答を得ており、今回はそうした書状類も展示します。

書院を飾る道具類についても、利常は遠州の仲介により藤原定家筆の重要文化財《十五首和歌》などの歴史的名品をはじめ、様々な優品を入手しており、同時にそれらに相応しい名物裂も収集しています。このように、遠州と前田家には、数寄の道を軸とした強固な信頼関係がありました。

重要文化財《十五首和歌》　藤原定家（部分）
前田育徳会蔵

学芸員の眼

昨年の企画展「加賀百万石　文武の誉れ」でも触れましたが、遠州と利常の絆は、定家だったと考えられます。日記の『明月記』から、文の力で権力に対して自身の主体性を表明しようとした、定家の人物像をうかがい知ることができます。この点が遠州、そして利常を魅了し、武の側面を巧みに織り込んだ、文化の力で幕府に対抗する加賀藩の文化政策へと結実していきました。

遠州の美意識は、後年「綺麗さび」と形容されますが、利休や織部のように権力者から死を命じられることを回避した鮮やかな手腕は、前田家の生存戦略にも大きな影響を与えました。そして当館で常設展示されている、重畳する意味を秘めた野々村仁清作の国宝《色絵雉香炉》や古九谷の名品にも、遠州の美学が絶妙に反映されていることを考えると、遠州は当館にとっても重要な存在であることを再認識します。

《有栖川錦（鹿文）》　前田育徳会蔵

油彩画（第4展示室）
特別陳列

Water Planets―永遠の瞬間（とき）を前にして― 中島範雄展

9月10日（土）～10月23日（日）　会期中無休

生者必滅を永遠に繰り返す世界の中で、目の前の一瞬一瞬を、生あるものが命を尽くして生きる美しさをテーマとして描き続けてきた中島範雄（なかじまのりお）。人や花、海、空、星々に至るまで、そのひと時の輝きを表現しようとキャンバスに向かい続けています。

中島は一九五五年に大阪に生まれ、一九六六年十一歳で金沢に移り、金沢美術工芸大学で油彩画を学びます。一九八三年にはスペイン美術賞展において優秀賞を受賞、出品作《白光》がバルセロナ近代美術館に収蔵されました。その後、国内外の展覧会に出品し、金沢・東京を中心に個展も多数開催してきました。

本展では、自身を育んだ石川の土地と人々に思いを馳せ、作家本人が選出した九点を展示します。「Water Planets」の連作は、幻想的な世界が鮮やかに描かれており、なかでも最新作の《Water Planets 0》は全長四十五メートルを超える大作で、作品に囲まれた空間に身を置くと、宇宙と歴史の雄大さを感じ、その流れの中にいる自分に気付かされます。色彩豊かに描き出された生命の讃歌を、みなさまそれぞれの視点でゆっくりとご覧ください。

◆関連行事

ギャラリートーク

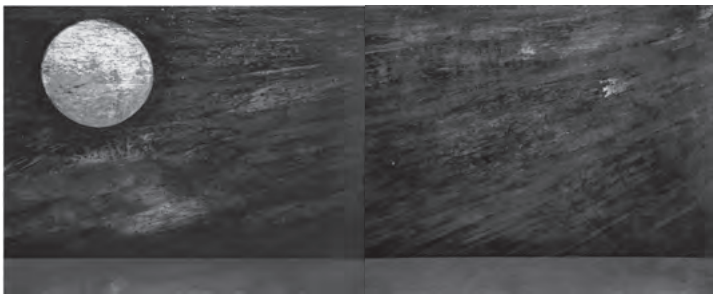
作家が作品について解説します。

日時：十月二日（日）　午後一時三十分～二時三十分

会場：石川県立美術館　第4展示室

＊聴講無料、申込不要

＊感染症の状況により内容を変更または中止する場合がございます。最新情報は当館公式ウェブサイトをご覧ください。



《Water Planets 2》

学芸員の眼

「虚無の時間の中で凍結している人間の「生」の一瞬を、永遠のものに昇華させたいのです。」第七回個展（一九八八年六月～七月、銀座・湯山画廊）の際、中島が述べた言葉です。それから三十四年、一貫してこの主題に取り組み、天使や女性を通して生の輝きを表現した「天使（エンジェル）」、花を通して生命力とはかなさを華やかに描き出した「華花（はなばな）」、刻々と変化する日本海の色と光を通して人間の内面世界を見つめた「JAPAN・SEA」など、次々と連作を発表してきました。本展で展示する「Water Planets」の連作は、白山の山頂から見た星々の輝きに感動し、宇宙と静かに対峙するなかで内省した経験から制作されたものです。この作品を前に、あなたは何を感じますか？

古美術（第2展示室）

茶の湯の美

9月10日（土）～10月23日（日）　会期中無休

加賀藩は、藩祖・前田利家、二代藩主・利長が千利休から茶の湯の指導を受け、さらに豊臣秀吉からのキリスト教棄教勧告を拒否して追放との身となった利休の高弟、高山右近も、利休の尽力により客将として迎えています。三代藩主・利常は、後水尾天皇と義兄弟の関係にあり、高度な文化の創出によって幕府への対抗心を表明した天皇に倣って、古今東西の名品の収集や、名工の招聘による工芸の振興などに尽力しました。

千利休没後の茶の湯が、古田織部、小堀遠州、金森宗和らによって進められた大名茶となった時流において、利常の文化政策に大きな影響を与えたのが遠州でした。大名茶興隆の一方で、利休の孫・宗旦は千家の再興とともに利休の侘茶への回帰を強く打ち出しました。利常は遠州、宗和とともに宗旦とも親交があり、宗旦の四男・仙叟宗室が晩年の利常に仕えた背景に宗旦の意向があったと推測されます。利常が一六五八年に没した後も仙叟宗室と加賀藩の関係は続き、五代・綱紀には一六六一年に初御見得して以後、三十年以上にわたって仕えました。このような歴史的背景により、加賀は茶道文化の一大中心地となりました。

文化による地域の個性を表明する気風は、明治維新後行政や実業家が「百万石ブランド」として継承し、茶の湯や能楽の興隆とともに歴史的名品が集積し、その一部は当館の重要なコレクションとなっています。今回は、館蔵品を主体として唐物、高麗物、和物を大きな区分として、仙叟宗室に至る茶の湯の美意識の展開を概観します。

石川県指定文化財《粉引茶碗　銘楚白》

近現代工芸（第5展示室）
みんなで楽しむ

はじめての工芸Ⅱ

9月10日（土）～10月23日（日）　会期中無休

今回の展示には、作品と一緒に工程見本が展示してあります。楽しみかたはそれぞれにあるのですが、今年はどのような材料を使って、どのような工程で作品となるのか?を興味を持って簡単に知るところからスタートする展示としました。導線のはじめに当たる壁面ケースの方は、夏休みに訪れる機会も多いお子様目線にあわせ低くなっています。材質から受けるなめらかな肌合いであったり、どのように形や木目を引き出すかであったり、材や技の美しさを感じるための一歩となるのではないでしょうか。

制作工程を簡単に知った後、何が描かれているのかとともに、何がどのように使われているのか、そこからどう感じるのかという楽しみが生まれてきます。例えば、寺井直次《蒔絵筥　極光》は漆黒の天面に九羽の鳥が配されています。鳥の周りには青貝や平目金粉が蒔かれ、タイトルにある極光はオーロラの意味があるので、漆黒の天面は夜、蒔かれたものはオーロラを表現しているのかな?と想像させられます。鳥は細かい卵殻で羽先まで表現され、金属粉で仕上げられた鳥との奥行き・距離感が印象に残ります。鳥の体のポイントには金蒔絵で強く描かれる部分も見られ、表現の強弱の美しさが心に残り、箱としては大きめの上面にさまざまな材で施された群れをなして飛ぶ鳥の姿が「美しいなあ」「凄いなあ」「綺麗だなあ」という工芸品の鑑賞を楽しむスタートとなることでしょう。

是非ゆっくり展示を楽しんでいただきたく思います。

寺井直次《蒔絵筥　極光》

近現代絵画・彫刻（第3・6展示室）

優品選

9月10日（土）～10月23日（日）　会期中無休

第3展示室では、季節や時間、作者や観者の感情を映し出す、「空」にまつわる作品を展示します。

油彩分野の村田省蔵《茜》は、卯辰山から望む浅野川の夕景を描いた作品で、画面を大胆に二分し、上部には空、下部には街並みを表します。空は黄や青、紫や橙など、多彩な色で徐々に暮れゆく様を表し、真っ赤な夕日はノスタルジーを感じさせます。

牧野宗則の版画作品《月影》は、伝統木版画の技と精神を継承しながら、現代的な鮮やかな色彩を魅力としています。展示作品からは時間の移ろいをも表現した空の表情や、そこから感じることができる日本人としての深い情感を味わうことができることでしょう。

彫刻分野では、雨が止んだことを確かめるような川岸要吉《雨あがり》はそのすらりとした立ち姿が美しく、末政哲夫《天窓の上の獅子座》は、きらめく金属で表現されたかたちが空に輝く星座を想起させます。「背景」をもつことが少ない彫刻作品における「空」の表現をお楽しみください。

第6展示室の日本画では、秋の風物詩「月」にまつわる作品を展示します。月を描いたものでは稲元実《武蔵野》が人気ですが、岐阜市の加藤栄三・東一記念美術館で開催の「抒情の旋律　稲元実日本画展」に九月十一日まで展示中です。そこで本展では作中の月を地球に置き換え、「二十一世紀も地球は水の星たりうるのか」と問う《21ｓｔｃ水の星》を展示します。

末政哲夫《天窓の上の獅子座》

第７展示室

風の会　第６回展

9月8日（木）～12日（月）　会期中無休

春の風にフワリと浮かぶ雲。タンポポの綿毛がフワフワと飛び、モンシロチョウがヒラヒラと舞う。夏の河岸では飛び交うホタルの群れ。頬をなでるこちよい風等を考えている時に、ふう（風）を思い付き、また、全員の気持ちが一致しました。自由で新しい発想による絵画制作を目的として二〇一六年より石川県在住の作家をはじめ、金沢美術工芸大学の学生も含めたメンバーで作品発表の機会を設けています。

抽象、具象を問わず、それぞれの視点や表現が個性豊かに現れていることと思います。ぜひこの機会にご覧いただき、ご指導いただければ幸いです。

◆入場無料

◆連絡先／江守マリ子　金沢市長町1丁目3－36
電話：076－221－3588
辰村浩子
電話：090－3297－5361

第8・9展示室
第44回

伝統加賀友禅工芸展

9月8日（木）～12日（月）　会期中無休

加賀友禅技術保存会は現在、十名の友禅作家が会員に認定されており、加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、石川県の無形文化財の指定を受けています。その主旨を推進するため、毎年開催しているのがこの展覧会です。

第三十二回展より公募制を採用したことで、広く一般の方も出品できるようになりました。加賀友禅における新しい感性と創造的作品の数々をご覧いただきます。

※毎日午後一時三十分より作品解説があります。

◆入場料／四〇〇円（三〇〇円）高校生以下無料
※（　）内は二十名以上の団体料金

◆主　催／加賀友禅技術保存会

◆連絡先／金沢市小将町8－8
加賀友禅会館内 伝統加賀友禅工芸展事務局
電話：076－224－5511

〔参加者募集〕令和4年度　友の会第20回バスツアー

福井の日本遺産を巡る

開催日　：令和4年11月3日（木・祝）
集合時間：午前7時40分
発　　着：金沢駅西口団体バス乗り場
参加代金：友の会会員　一三、〇〇〇円
　　会員以外　一四、〇〇〇円
募集定員：20名　※応募者多数の場合は抽選になります。

◆見学地
福井の日本遺産「福井・勝山石がたり」をめぐるバスツアーです。石と共生し、都市を築き、文化を育んできた福井の人々。「石」をキーワードに紡がれた物語をたどります。

【一乗谷朝倉氏遺跡】
朝倉氏の城下町跡。朝倉氏五代・一〇三年間にわたる栄華を肌で感じましょう。

※ガイドとともに90分程度遺跡の中を歩きます。ご心配な方は、事前にご相談ください。

【福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館】
今年10月にリニューアルオープンの今秋話題の施設です。出土品の展示のほか、一乗谷朝倉氏遺跡をわかりやすく紹介しています。

【養浩館庭園】
福井藩主松平家の別邸であり、江戸前期を代表する名園の一つです。越前産の名石が随所に用いられた庭園を散策します。

【福井市立郷土歴史博物館】
旧福井藩ゆかりの資料を数多く所蔵し、先史古代から戦後復興期までの福井の歴史を紹介。婚礼衣装やしつらえに着目した企画展「ジャパニーズ・ウェディング」も鑑賞します。

※昼食は越前そばを予定しています。アレルギー等ご心配な方は事前にご相談ください。うどんへの変更等、対応させていただきます。

◆申込方法
以下の内容を記載の上、往復はがきもしくはメールにてご応募ください。
※一通のはがき・メールで二名以上の申込をされる場合は、下記内容を人数分ご記載ください。

①往復はがきの場合
往信はがき裏面…「美術館バスツアー希望」と明記の上、氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号（会員のみ）をご記入ください。
返信はがき表面…返信先（ご自身の住所）をご記入ください。
※消えるボールペンは使用しないでください。
返信はがきの裏面には何も記入しないでください。

②メールの場合
件名…美術館バスツアー希望
本文…氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号（会員のみ）

◆応募先
往復はがき…〒920－0963　金沢市出羽町2－1
　石川県立美術館バスツアー係
メール…　ishibi@prefishikawa.lg.jp

◆応募締切
令和4年9月18日（日）当館必着

※感染症の状況により、バスツアーの中止、見学地の変更および内容が変更となる場合がございます。あらかじめご理解のほどよろしくお願いいたします。
※ご自身の体調を考慮の上、お申込みおよびご参加いただきますようお願い申し上げます。（当日、医療従事者は同行しません）

9月の行事予定

■土曜講座		13時30分～15時　美術館講義室　無料
10日（土）	「画人列伝1―国宝編―」	学芸第一課長　前多　武志
24日（土）	「加賀宝生のすべて―能面と能装束―　鑑賞ガイド」	学芸専門員　村上　尚子
■0才からのファミリー鑑賞会	①10時～11時　②11時～12時　③14時～15時	
23日（金・祝）	※詳しくは、当館公式ウェブサイトをご確認ください。	

※先にお知らせした10月の土曜講座で日程の変更があります。
10月1日（土）「龍村平蔵の名物裂復元」　学芸第二課長　寺川　和子
10月15日（土）「「加賀宝生」と前田家―綱紀・斉泰・利鬯―」　学芸専門員　村上　尚子

アラカルト ただいま展示中

à la carte No.63

《厚板　四ツ目瓜唐花飛模様》あついた　よつめうりからばなとびもよう

丈148.2cm　裄68.5cm
江戸時代　19世紀

「前田家伝来の能装束」と聞くと、遠い昔に使用された能装束と思いがちですが、「この装束を着た藩主の写真がある」と聞くと、驚きませんか？かつて私も、その写真にびっくりしたひとりです。

厚板は、「厚い板のような織物」の意味を持つ能装束で、主に男性役に用いられます。大きな四ツ目紋・瓜紋・唐花紋が大胆に配された厚板は、勇猛な役柄にふさわしく、能装束を包む畳紙には〈橋弁慶の弁慶や〈熊坂〉の熊坂長範によいとする宝生弥三郎の助言が記されています。弥三郎は、十四世宝生大夫英勝の実父明喬のこと。加賀藩前田家が抱えた宝生嘉内家の四世です。

この装束を着た藩主とは、大聖寺藩最後の藩主十四代前田利鬯（一八四一～一九二〇）です。加賀藩十三代藩主前田斉泰の七男にあたります。藩主ではなく、元藩主といった方が正しいでしょう。写真を撮った当時は「子爵」でした。父斉泰の影響により十代の頃から能を習い、幕末には金沢城で斉泰と共に舞った記録がのこっています。東京移住後は、当時唯一の舞台であった梅若舞台に斉泰より早く出入りし、父斉泰亡きあとは、明治時代の能楽社会に大きな影響を及ぼしました。

利鬯が扮したのは、〈安宅〉における弁慶です。厚板を着付として着用し、下には白の大口、上衣には縞の水衣に篠懸（結袈裟のこと）をかけています。頭には兜巾、手には経文を広げる姿は、直面につき、利鬯の表情がうかがえるのも興味深いところです。利鬯の写真は、本厚板とともに展覧会にて紹介します。

次回の展覧会

令和4年10月28日（金）～12月11日（日）
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第２展示室	第５展示室
加賀藩の美術工芸	石川県の文化財 —国宝・重文・県文・市文—	優品選【近現代工芸】

第３展示室	第４展示室	第４・６展示室	１F企画展示室
Voyage —海外を旅する—【近現代油彩画】	画家の版画【近現代版画】	優品選【近現代絵画・彫刻】	第69回 日本伝統工芸展 金沢展〔10/28～11/6〕

ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　370円（290円）
大学生　290円（230円）
高校生以下　無料
※（　）内は団体料金
9月5日は第1月曜により
コレクション展示室無料の日

開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後6:00 年中無休

9月の休館日は
6日（火）～7日（水）

広告
『石川県立美術館だより』に広告を掲載しませんか？
石川県立美術館友の会会員・石川県立美術館協力者・県内各行政機関及び文化施設・全国の美術館・博物館へ 郵送配布！ 2,500部発行
詳しくはお問い合わせください
WEBお問合せフォームはコチラ
株式会社ウィット Tel.072-668-3275 株式会社ウィット 検索
〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501　Fax.072-668-3276　HP.https://wi-t.co.jp/

石川県立美術館だより
第467号（毎月発行）
2022年9月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。